

経済マンスリー [原油]

WTI とブレントの価格差が縮小

原油価格 (WTI 期近物) は上昇傾向にある。1 月 1 日、米下院が「財政の崖」回避に向けた法案を可決したことを受けて、2 日の原油価格は 93 ドル台と約 3 ヶ月半振りの高値となった。その後も原油価格は 93 ドル近辺で推移し、1 月 17 日には堅調な米経済指標と地政学リスクの高まりを背景に、95 ドル台へ上昇した。足元でも同水準で推移している。

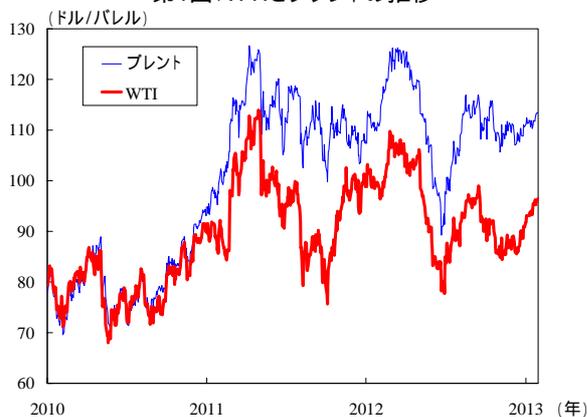
2013 年に入り、WTI と北海ブレント (以下、ブレント) の価格差が縮小している。WTI はブレントより高品質のため、WTI の方が約 1~3 ドル高い展開が 90 年代から続いていた。しかし 2011 年以降はブレントの方が高くなっており、2012 年 10~12 月には WTI を 20~23 ドルと大きく上回って推移した。価格差が逆転かつ拡大したのは、ブレントが高値で推移する一方、WTI は上値が重かったことによる (第 1 図)。

ブレントの高値推移の理由として、中東・北アフリカ情勢の緊迫化を受けて、地理的に近い欧州への供給懸念が高まったことが挙げられる。また、北海油田の生産が減少傾向にあることも中期的な価格下支え要因となっている。

一方、ブレントに比べて WTI の上値が重かったのは、WTI の現物受け渡し場所であるオクラホマ州クッシングの原油在庫が過去最高水準に積み上がったことが大きい (第 2 図)。在庫増加は、石油関連施設が多く集まるメキシコ湾岸とクッシングを結ぶパイプラインの輸送能力不足に起因するが、米国のシェールオイル増産も影響している。

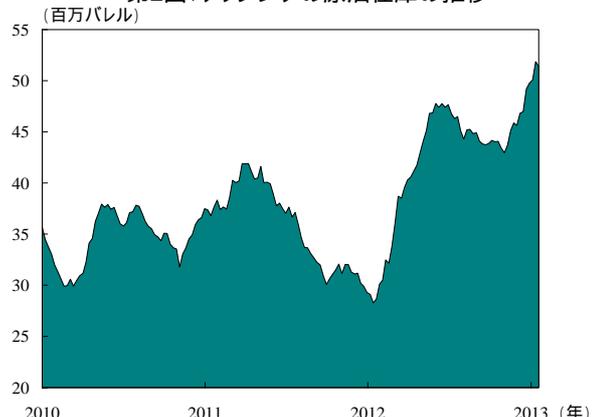
しかしながら、1 月 11 日にパイプラインの輸送能力が拡充されたことから、在庫減少への期待が高まり、WTI 上昇の一因となった。計画では 2014 年初に輸送能力がさらに拡充されるのに加え、別のパイプラインも 2013 年後半に完成予定であるなど、輸送能力の問題は徐々に解消に向かっている。2013 年の WTI とブレントの価格差は、2012 年の 18 ドル (年平均) から縮小する可能性が大きい。

第1図: WTIとブレントの推移



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図: クッシングの原油在庫の推移



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 石丸 康宏 yasuhiko_ishimaru@mufg.jp
篠原 令子 reiko_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。